

National Park Vol. VII - Traditional People and Biodiversity Conservation in Gunung Halimun National Park in Indonesia. (地域住民の社会経済状況および環境資源の利用についてまとめている). ○Harada, K., Rahayu, M., Muzakkir, A. and Widada (2001) Medicinal Plants in Gunung Halimun National Park, Indonesia. (地域住民に利用されている 100 種類以上の薬用植物の利用法や形態等について解説している).

## 図書紹介

◎持続可能な森林管理のための生態学的、造林学的方策 (英文) 藤森隆郎著 (Takao Fujimori, 2001, Ecological and Silvicultural Strategies for Sustainable Forest Management/ELSEVIER, pp. 398)

1992年のリオデジャネイロの地球サミット以来「持続可能な開発」の重要性がひろく認識され、「持続可能な森林管理」は世界的課題となっている。森林総合研究所で長く森林生態、育林の研究にたずさわりの「持続可能な森林管理」や地球温暖化防止にかかわる国際会議の委員を務め、国内外の森林や森林管理に通じている著者が、研究者や学者以外の国内外の森林・林業政策者などの人々に対して、森林の機能に応じた具体的な管理方法を提案したのが本書である。

内容は4部構成で、第1部では、1章：緒論、2章：樹木と森林の特徴と生態的特性、3章：森林生産力に影響を及ぼす要因、で「持続可能な森林管理」の基礎となる森林生態学が説明されている。第2部では、4章：更新、5章：種間競争の制御のための管理、6章：林分密度と林木の形質成長の制御、でこれまでの育林技術や方法が説明される。そして、それらの「持続可能な森林管理」への応用や改良が、第3部の7章：育林方法の分類、8章：木材生産のための育林方法、で検討されている。第4部では、9章：持続的森林管理、10章：生物多様性保全、11章：水土資源の保全と維持、12章：林産物供給のための生産力維持、13章：文化休養機能の維持増強、14章：地球規模の炭素循環の維持への森林の貢献、15章：森林生態系の健康と活力の維持、で森林機能の増大のための生態学的、造林学的方策が検討されている。また、16章は本書全体の要約と結語である。(以下65頁へつづく)

りにおいて根、幹の食害が確認され、枯死した個体も現れた。食害を防ぐためには、完熟堆肥の導入が必要かもしれない。

## 7. 終わりに

筆者が活動していた97年当時、タイ貨幣の急落に端を発した経済危機は、燃料から食料品に至る物価の上昇を招き、東北タイの貧しい農村の生活はますます厳しいものとなった。この不況がそれまでの森林造成への盛り上がりにも影を落としている。森林の回復を目指すにあたり、農民がその重要な担い手であるが、彼らにとっては、現金収入のめどが立ちにくい森林造成より畑を耕すことの方が急務であったに違いない。このような社会状況の中で森林回復を確実なものとするためには、林業と農業、水産業等を複合させたアグロフォレストリーの技術や耕作地にならない痩悪地での造林技術を早期に確立することが重要なのではないか、ということ強く感じたものである。

.....  
(56頁「図書紹介」よりつづく)

本書はおもに温帯林と北方林が取り上げられ、熱帯林は殆ど触れられていないが、熱帯降雨林などは日本の暖帯林との共通点も多く、著者の説く森林管理には熱帯林の管理にも通じるものがある。たとえば、蔓切りのような植生管理や生物多様性保全である。

「持続可能な森林管理」は言うのは易しいが、完璧な管理（そういうものがあるのかどうかは別として）は不可能であり、実行できる管理は完璧でない。どのような管理を選ぶかは我々の決断しだいであり、決断には国家や地域間の困難な交渉が避けられない。著者は森林の正しい知識にもとづいた議論が重要であるとの認識にたつて「持続可能な森林管理」の精神に沿って既存の育林方法を体系づけ、既存の方法が十分でない場合は新しい方法を提案している。

(清野嘉之)